

神戸市『計画変更素案』への回答

まず、2011年6月に公表された市の『計画変更素案』全般への回答を申し上げます。

路線全体を「主要幹線」と「生活幹線」に区分し、異なる性格としての位置づけが与えられたことは、私たち地域の『考え方』(注1)に即した、きわめて妥当な計画であると言えます。またそれを踏まえた、大谷交差点以北(主要幹線)の整備のあり方についても、概ね適切な素案が提示されていると判断されます。しかしながら、大谷交差点以南(生活幹線)については、地域の『考え方』と大きく乖離している部分があり、とりわけ「方針②」(注2)とのギャップは甚大と考えられます。また小学校・幼稚園等の沿道施設や枝道との関係が見えないことによる不安も大きい。さらに、高架下区間については「方針⑩」(注3)と対立する方向が示されており、その代替案も具体性に欠けるため、大いに懸念が残らざるを得ません。

これらのことから、私たち地域としては『計画変更素案』をそのままのかたちで受け入れるのではなく、以下の「整備の方針とイメージ」を再提案し、これに基づく素案の修正を求めます。なお、今後の修正プロセスは地域との協働に基づいて、適切な情報共有の機会と十分な協議の場を設けていただきますよう要望申し上げます。

今日までの私たち地域住民や沿道権利者の粘り強い取り組みと、徹底した民主的合意手続き、総合的なまちづくりの推進に向けた思いを汲んでいただき、一日も早い事業化を切に願います。

(注1) 2010年7月に提出。5ページの「参考1」を参照。

(注2) 「方針② 整備によって地形が大きく変わるおそれのある部分については、現状の保全を優先します。特に大谷交差点から南は、複雑な自然地形と、沿道の緑や新旧の建物がつくりだしてきた独特の景観を損なわないようにします。」

(注3) 「方針⑩ (高架下は) 道幅を広げ、歩行者の安全対策を行います。」